

平成 20 年度第 2 回普及に移す農業技術・試行技術（技術項目及び要約のみ）

番号	技術項目 要 約	担当場・部
1	<p>水稻移植栽培において 15 株/㎡(50 株/坪) までの栽植密度低減は慣行並みの収量を確保できる</p> <p>[要約] 低暖地でのコシヒカリ移植栽培において、栽植密度を 15 株/㎡(株間 22cm、50 株/坪)まで低減しても慣行並みの収量を安定的に確保できる</p>	農試作物部、農業技術課
2	<p>小麦「東山 42 号」は製パン性、耐病性、耐倒伏性に優れた硬質小麦品種である</p> <p>[要約] 小麦「東山 42 号」は中生の硬質小麦で、「ユメアサヒ」と同等に製パン性に優れる。「ユメアサヒ」よりコムギ縞萎縮病・赤さび病を始め諸病害に強く、耐倒伏性に優れる。</p>	農試験場育種部、農業技術課専門技術員
3	<p>そば「桔梗 3 号」は耐倒伏性に優れたそば品種である</p> <p>[要約] そば「桔梗 3 号」は「信濃 1 号」と比較して耐倒伏性とゆで麺の色の評価に優れる。生態型は中間秋型で収量性は「信濃 1 号」と同等である。また、乳熟期に赤果皮となる個体が多い。今年度認定品種に採用された。</p>	中信試畑作育種部、農業技術課
4	<p>大豆「東山 205 号」は機能性蛋白質に富む大豆品種である</p> <p>[要約] 大豆「東山 205 号」は、機能性の高い蛋白質β-コングリシニンを多く含有する新しい形質の品種である。「ナカセンナリ」よりやや晩熟な晩生種で、収量と品質は「ナカセンナリ」並、紫斑病とうどんこ病に抵抗性である。</p>	中信試畑作育種部、農業技術課専門技術員
5	<p>りんご「シナノゴールド」は積算温度により適熟期を把握できる</p> <p>[要約] りんご「シナノゴールド」の果実の成熟は積算温度と高い相関があり、標高 500m 程度までの低標高地域では、8 月 21 日以降の日平均気温の積算がおよそ 1100℃以上で適熟期になる。</p>	果樹試栽培部、南信試栽培部
6	<p>アスパラガスの収量増加のためのかん水技術</p> <p>[要約] アスパラガスの収量はかん水により高まり、太い若茎の割合が高くなる。同量のかん水を行う場合、うね間かん水に比べうね上点滴かん水の方が増収効果が高い。</p>	野花試野菜部、農試機械施設部
7	<p>夏秋どりいちごのランナー子株挿しにより定植苗不足時の収量を確保できる（県内限定）</p>	南信試栽培部
8	<p>ミニトマト「桔梗交 43 号」は房どりに適した品種である</p> <p>[要約] ミニトマト「桔梗交 43 号」は短節間・短果房形質を有し、節間長、果房の果間長が短く、房どり収穫における収量性に優れ、つる下ろし・収穫作業労力を軽減できる品種である</p>	中信試畑作育種部
9	<p>トマト「桔梗交 44 号」は果汁品質が優れたジュース用品種である</p> <p>[要約] トマト「桔梗交 44 号」はリコペン含量、果実の糖度が安定して高く、大果で収量性に優れたジュース用品種である</p>	中信試畑作育種部
10	<p>ストックの春作型におけるアイアン系品種の品質向上技術</p> <p>[要約] アイアン系品種の春作型の品質向上には、トンネル密閉による高温処理が有効で、無処理よりも 1～2 週間程度開花が抑制されるものの、切り花長が長くなり品質が向上する。</p>	野花試花き部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
11	<p>きのこ栽培用活性材「ニョキデール®」はブナシメジ「NN-12」の低コスト栽培に有効である</p> <p>[要約] きのこ栽培用活性材「ニョキデール®」ぶなしめじ用は、ブナシメジ「NN-12」栽培培地の添加材タカラクリーンと1：1で混合使用することで、タカラクリーン単体添加と同等の収量が得られコスト低減が図れる。</p>	野花試菌茸部
12	<p>白色LED光源「ルーガ」防水照明器具ユニットはブナシメジ生育期の光照射に利用可能である</p> <p>[要約] 省エネルギーで環境に優しい長寿命の白色LED光源「ルーガ」防水照明器具ユニットは、ブナシメジ栽培の生育期の光照射器具として現行の白色蛍光灯と同等に使用でき、コスト低減が図れる。</p>	野花試菌茸部
13	<p>温度記録計「林® U12 ステンレス・テンプ・データロガー」はきのこ高圧殺菌中の培地内温度を簡易に測定できる</p> <p>[要約] 「林® U12 ステンレス・テンプ・データロガー」は、高温・高圧環境下で温度記録ができかつ比較的安価に購入が可能な温度記録計で、簡易に高圧殺菌工程のきのこ培地内温度を測定できる。</p>	野花試菌茸部
14	<p>無線機能付万歩計を用いた乳用育成牛の発情の発見法</p> <p>[要約] 無線機能付万歩計を用いて、放し飼い方式で飼養している乳用育成牛の発情発見及び発情開始時刻の推定ができる。</p>	畜試酪農部
15	<p>黒毛和種繁殖牛において分娩後早期に採胎してもその後の人工授精によって1年1産を達成することが可能である</p> <p>[要約] 黒毛和種繁殖牛において、分娩後約50日で過剰排卵処理により正常胚が採取でき、80日までに授精することによって分娩間隔を約365日とすることができる。</p>	畜試肉用牛部
16	<p>肥育後期豚に玄米を給与する場合は粉碎した方が飼料効率が良好で肉質への効果が高い</p> <p>[要約] 肥育後期豚に市販配合飼料に粉碎した玄米を10%添加して給与する場合は、2mm平方の網目以下に粉碎することで飼料効率が良好となり、肉質への効果が高くなる。</p>	畜試養豚養鶏部
17	<p>玄米は信州黄金シャモの飼料原料として活用できる</p> <p>[要約] 信州黄金シャモに玄米全粒を給与した場合、嗜好性がよく、飼料原料のトウモロコシの半量を代替しても同等の生産性を得られる。肉色、脂肪色は黄色みが低下し、皮下脂肪の脂肪酸組成は、オレイン酸が上昇、リノール酸が低下する。</p>	畜試養豚養鶏部
18	<p>飼料用ソルガム「東山交31号」は高品質で嗜好性に優れたスーダン型品種である</p> <p>[要約] 飼料用ソルガム「東山交31号」は高消化性遺伝子を持ち、飼料品質ならびに嗜好性に優れたスーダン型ソルガム品種である</p>	畜試飼料環境部
19	<p>耕作放棄地における除草剤を使わないソルガムの散播密植栽培法</p> <p>[要約] 散播密植栽培を行うことにより、1年生雑草が優占する耕作放棄地において、除草剤を使用しないソルガムの栽培が可能である。</p>	畜試飼料環境部
20	<p>輸入乾草に対するさやえんどうを用いた除草剤クロピラリドの生物検定法</p> <p>[要約] さやえんどうを用いた生物検定により、輸入乾草における除草剤クロピラリドの残留程度を推定できる。</p>	中信試畑作栽培部

番号	技術項目 要約	担当場・部
21	<p>稲発酵粗飼料導入のための経営計画モデルは交雑種肥育牛経営および稲作農家における導入条件の検討に利用できる</p> <p>[要約] 立科町の調査データから作成した「経営計画モデル」の単体表と線形計画法プログラム XLP を用いると、稲発酵粗飼料の定着に必要な品種構成や栽培方式、収益目標、助成金水準等を試算することができ、生産・給与体系を検討する際のツールとして活用できる。</p>	農総試経営情報部
22	<p>稲発酵粗飼料の給与を特色とする牛肉のマーケティングプロセスは地場産の特色ある畜産物の販路定着や消費拡大に活用できる</p> <p>[要約] 稲発酵粗飼料の給与を特色とする牛肉のマーケティング手順に従って特色ある地場産畜産物の商品価値評価、実需者・消費者ニーズに合った品質での安定供給体制の確立、営業活動などを実施すると、地域のブランド品として販路の定着や消費拡大が期待できる。</p>	農総試経営情報部
23	<p>「発生予察支援装置」及び「クroppナビ」による葉いもち感染条件の判定結果からイネいもち病（葉いもち）の発生初期の動向が把握できる</p> <p>[要約] 「発生予察支援装置」及び「クroppナビ」による葉いもち感染条件の判定結果から、葉いもちの発生初期の動向が把握でき、設置地区・圃場の葉いもちの発生時期の目安となる。</p>	農事試病害虫土壤肥料部
24	<p>ナシ黒星病感染予測に基づいた「幸水」、「豊水」の病害防除体系（予測防除体系）は黒星病に対する効果が高く、また主要病害全般にも有効である</p> <p>[要約] ナシ黒星病感染予測に基づいた「幸水」、「豊水」の病害防除体系（予測防除体系）は黒星病に対する効果が高く主要病害全般にも有効である。この予測防除体系は天候により散布回数変動するが、過去3ヵ年の実証では散布回数、殺菌剤の投下成分数、殺菌剤の薬剤費が慣行と比較しておおよそ半減した。</p>	南信試病害虫土壤肥料部
25	<p>大豆「ペキン」の作付はダイズシストセンチュウによる被害の軽減に有効である</p> <p>[要約] ダイズシストセンチュウ高度抵抗性の青刈り用大豆「ペキン」を栽培すると、土壤中のダイズシストセンチュウ密度が低下し、後作大豆の被害を軽減できる。</p>	中信試畑作育種部、農事試病害虫土壤肥料部
26	<p>LED防除器（レピガード®）は施設栽培カーネーションにおけるオオタバコガの産卵を抑制できる</p> <p>[要約] カーネーション栽培施設において、LED防除器（レピガード®）を10㎡に1個の割合で設置し、オオタバコガ成虫の発生期の日没前から日の出後まで点灯すると、オオタバコガの産卵数を抑制できる。</p>	野花試験場病害虫土壤肥料部・花き部

※普及に移す農業技術のうち試行技術は、農業関係試験場で育成、開発又は実証され、農業発展に寄与する技術及び情報のうち普及技術とするにはまだ未解決の部分があつて適当でないもの、おおむね生産技術の向上に役立ち、試行する価値があるものです。

毎年、10月と2月に普及技術検討会で審査され、公表されます。試行技術の詳細については、お近くの農業改良普及センターへお問い合わせください。

農業改良普及センター一覧

普及センター名	所在地	電話番号
佐久農業改良普及センター	佐久市大字跡部 65-1 佐久合同庁舎内	0267-63-3146
上小農業改良普及センター	上田市材木町 1-2-6 上田合同庁舎内	0268-25-7157
諏訪農業改良普及センター	諏訪市川上 1-1644-10 諏訪合同庁舎内	0266-57-2932
上伊那農業改良普及センター	伊那市大字伊那 3497 伊那合同庁舎内	0265-76-6842
下伊那農業改良普及センター	飯田市追手町 2-678 飯田合同庁舎内	0265-53-0436
木曾農業改良普及センター	木曾郡木曾町福島 2757-1 木曾合同庁舎内	0264-25-2230
松本農業改良普及センター	松本市大字島立 1020 松本合同庁舎内	0263-40-1947
北安曇農業改良普及センター	大町市大字大町 1058-2 大町合同庁舎内	0261-23-6543
長野農業改良普及センター	長野市大字南長野南県町 686-1 長野合同庁舎内	026-234-9534
北信農業改良普及センター	中野市大字壁田 955 北信合同庁舎内	0269-23-0221